

●全国学力学習状況調査(小6)

課題の見られた問題の概要	結果
割合(数学的な考え方)	16.2%
等積変形の理由(数学的な考え方、帰納性)	19.1%

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(小5)

課題の見られた問題の概要	結果
計算の工夫(数学的な考え方)	25.7%
複合図形の面積(技能)	46%
マッチ棒の数(関数的な見方)	24%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
関心、意欲、態度の調査結果は8割強と高い。四則計算の計算技能に関しても、比較的正答率が高い。	分配法則や結合法則などを活用して、計算を組み替えたり、簡単にする力。 図や表から、規則性、法則性や関数的な見方を見つけ出し、問題解決に適用させる力。

●調査結果を踏まえて学校全体で取り組む内容

計算技能や処理に関しては、概ね定着してきている。一方で、そのつまづきにより授業参加意欲が低下している児童も少なからずいる。こうした児童に対して、問題で問われている場面のイメージを高める見通しを持たせる話し合いや板書、ヒントカードや具体物操作、スモールステップを意識したノート指導などを通して、基礎基本の更なる定着を図る。また、「アクティブラーニング」を意識した問題解決型学習を推進することで、活用・発展力を高める授業作りに取り組む。

●調査結果を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	式の中の数字が何を表しているか、問題文の中から考えさせる。また、資料や問題から解決に当たるための語や文を取り出せるようにする。	式を立てる際、具体物を用いて場面をその場面を考えさせるように、半具体物を用い、次に、ノートに絵や図、表、数直線、言葉で表現できるように指導する。
2年生	問題文をしっかりと読み取り、演算決定できるようにする。時計の読み方、ひっ算のやり方、かけ算九九の暗唱がきちんと定着できるようにする。	問題解決の中で、考えていく過程をテープ図なども用いて簡単にノートに書き表し、単元によっては半具体物を使って表現できるように指導する。
3年生	分配法則や結合法則を使い工夫して計算することや式の中の数が何を表しているかを具体的に考えながら問題解決に当たることが必要である。	立式の際、式を構成している数の意味を実感的に理解できるよう、適宜助言する。必要に応じて具体物を使用する。
4年生	計算問題についての技能は身に付いているが、工夫して計算することや、図や文章の中から必要なことを読み取ることに課題がある。	問題解決の中で、考えていく過程をノートに表し、説明することで、理解を深める。既習内容と似ているところ違うところ等を確認しながら学習を進め、学習内容を積み上げていく。
5年生	既習事項の習得に偏りがあり、特に比較・関連付けて読み取る力や意図や背景、理由を理解・解釈推論して解決する力に課題がある。	問題文では内容を十分理解させて、数字一つ一つがもつ意味と関連づけながら、解決する方法を考えさせる指導を行う。また、ベーシックドリルの活用を積極的に行う。
6年生	複雑な複合図形の面積を求める問題で各図形の公式を応用することが難しい。また、どの数かもとにする数かを考えた立式につまづいている。	面積や体積を求める公式が定着していないため、簡単な問題に繰り返し取り組んでいく。立式のための手立てとして数直線など工夫する姿勢を育てる。

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
基礎、基本の充実を図るべく、練習問題や東京ベーシックドリル等の取り組みの成果が表れてきている。「習熟度別算数」における、児童一人一人に応じた手立ての充実による、学習意欲が向上している。	算数的思考力の充実。既習を生かして問題解決に取り組む態度、自分の考えを多様な方法で表現したり、発表したりする力。配慮が必要な児童への学習意欲を高め、持続する力。

●学校全体で取り組む内容

現在推進している、基礎・基本の充実を図る手立てとして取り組んでいる練習問題や東京ベーシックドリルなどを継続し、その変容や推移を的確に見取り、実態に応じて学習内容の精選や重点化を図っていく。また、思考・判断・表現を大切に、児童自らが意欲的に学習に取り組む態度をさらに高めるべく、問題解決型学習を意識した授業作りの工夫と充実。

●本校の実態を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	計算の技能は定着してきたが、文章問題など数学的思考の問題については、理解がまだ乏しい面がある。	ノート指導を丁寧に行い、図や絵を用いて問題を解決していけるようにする。
2年生	計算技能はおおむね定着しているが、日常で扱う機会が少なくなっている量測分野での得意・不得意が目立っている。	具体的操作によって、量感覚が養われるような機会を多く設ける。また、日常生活でも関連する単位を扱い、馴染む機会を多く設ける。
3年生	知識・理解面や、計算の技能等は概ね定着している半面、数学的思考の正答率が他の観点の半数程度で、思考力を育てることが課題である。	「問題解決」型学習を通して自分の考えや思いを自分なりに書いたり伝えたりする能力の素地を培う。そのために、モデルを示して考えさせたり自分の考えを説明したりする活動を展開する。
4年生	知識理解・技能は概ね定着しているが、児童によつての理解の差が大きく、習得が難しい児童もいる。図形問題において課題がある。	既習内容を生かしながら、問題解決に向けて、自分の考えを表し・説明する活動を通して、理解を深め数学的な考え方を育てる。図形等は、実際に操作して図形感覚を身に付ける。
5年生	学力に差があり、基礎・基本の定着が十分でない児童も多い。既習事項の習熟とともに、問題の解決に合った方法を選択する力を培うことが課題である。	自力解決の時間を通して、具体物などを活用し、自分の考えをノートに書くことができるように指導する。
6年生	分数・小数の四則演算についての知識理解はほぼ定着している。円の面積や角柱の体積など、様々な計算を積み上げていく問題については課題である。	面積や体積の公式を使った学習課題により多く取り組ませる。また、文章問題でも数直線を思考のツールとして活用し、数量の関係を明らかにすることで立式に役立たせる。